
celestino -チェレスティーノ-

白雪紅羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

celestino - チェレスティノ -

【コード】

N6808F

【作者名】

白雪紅羽

【あらすじ】

現実の色々に疲れたわたしが、ふと夜中に目を覚まして思い出した、ある”悲しみの天使の話”

” 眠れぬ夜にはね。

深い悲しみと痛みを引き連れた墮天使が
枕元に舞い降りてくるんだよ。

その墮天使はね、空の青よりももっと澄んだ青の、
海の青よりももっと深く静かな青い瞳を持っている。
それはね、この世でもっとも貴くて、気高くて、
本当に悲しい色なんだ

”

幼い頃に誰かがわたしに教えてくれた、
悲しみの天使の物語を、ふと思い出した。
うつらうつらとしながらも、眠りの底にたどり着けないでいるうちに
わたしは浅い夢を見ていたらしい。

一筋の涙が、頬を伝うのにようやく気付いた。

「泣いてなんか…わたしったら。」

苦笑して窓ガラスに映る疲れた女を眺める。

いつからこんなになっちゃったのだろう。
嘘にまみれた現実には係わらないで、
一人で生きていければいいと、そう思っていたのに。

わたしは、すっかり、弱ってしまった。

こここのところ、毎晩のように舞い降りる青に、わたし自身とても疲

れていた。

「あなたは、誰？」

窓ガラスの女に訊ねてみる。

” アナタハダレ？ ”

窓ガラスの女が訊ねてくる。

……そう、ね、わたしは、一体誰なんだろう……
もう片方の頬も、温い涙が伝っていく。

” 堕天使はね、実はとてもまっすぐに優しいんだ。

本当の悲しみを知るからこそ、その優しさはとても、深い。

瞳の色の真実を知りたいのなら、天使に身をあずけてごらんよ

”

天使のもたらす結末は覚えていないけれど、その話を教えてくれた人は、

やはり瞳にたくさんの悲しみを讃えていた。

焦げ茶色のその瞳は、吸い込まれそうなほどに澄んで、

わたしを見つめていたのを覚えている。

きっとわたしは、これからも、悲しみを繰り返して生きていくのだろう。

人間であることって、嘘に悲しみを重ねていくことなんだと、そう思う。

なにも終わらないまま、なにも変わらないまま、命が尽きるまで、
悲しみを繰り返していくのだろう。

” モウネタライイヨ ”

窓ガラスの女が感情のない虚ろな瞳で囁く。

「そうするわ。…おやすみ。」

諦めと少々の安堵と共に、わたしはシーツに潜りこむ。
冷たいシーツの感触が、何故だか優しく感じられる。

「おいでよ。青い瞳の墮天使さん。」

見えない天井に向かって、手招きを試みる。
誰かが微笑んだような気がした。

あなたの物語を、今夜は最後まで聞かせてくれないかしら？
そしてその瞳の…悲しみの青の中で、わたしの心を優しく眠らせて
くれない？

いつのまにか窓ガラスの女は姿を消していた。

かたん と、まだほの暗い窓が、
小さく音をたてて、わたしの意識はゆっくりと沈んでいった…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6808f/>

celestino -チェレスティーノ-

2010年11月26日13時07分発行